

近畿駆け巡り既に 34 小選挙区入り 戦争法廃止・「国民連合政府」へ全力

大門みきしさんは、昨年 3 月の予定候補発表以来、国会と近畿をピストンで大奮闘してきました。近畿では北は京都・丹後、兵庫・但馬、南は和歌山・那智勝浦まで、すでに近畿の 48 の小選挙区のうち 7 割以上の 34 選挙区に入りました。予定候補発表以来の大門さんの活動をシリーズで紹介します。

国会で

「戦争法必要論」の根拠崩す

政府・与党が戦争法案必要論の根拠にした「中国脅威論」。大門さんが、根拠がないことを事実に基づいて指摘したのに対し、岸田外相は「日本政府は中国を脅威とみなしてはいない」と明言。宮沢経産相も「(中国との)経済の結びつきが将来さらに強くなることを考えると、大事な市場という位置づけは変わらない」と、日中関係を重視する立場を示しました。「脅威」論が成り立たないことを政府自身が認めたもので、戦争法推進論への打撃となりました。(8月5日、安保法制特別委＝写真)



日中関係 冷静な議論を

大門さんは、日中関係について日中間には尖閣諸島などの問題があることは事実だと指摘しつつも、「すぐに(中国が)攻撃してくる、戦争になるといった極端な議論が『戦争法案』の議論の中で横行している」と批判。「(日中間での)相互依存も強まるなか、冷静で総合的な議論が必要だ」と述べました。日中関係の展望を問われた麻生太郎財務相は、「信頼関係をつくるには時間がかかる」としつつ、「利害関係で一致するところはあるから率直に話せば通じるところがある」と答弁しました。(8月4日、財政金融委)

強行採決、怒り込め糾弾 特別委員長の間責に賛成討論

議事録に「発言する者多く、議場騒然、聴取不能」としか書かれなかった安保法制特別委員会での戦争法案強行採決。大門さんは鴻池特別委員長の問責決議への討論で「あんなことが採決と言えるのか。この採決そのものが、反知性主義の最たるものではないか」「日本がアメリカの戦争に参加する、日本の命運が懸かった重大法案を、こんな乱暴な採決で成立したことにして本当にいいのか」と怒りを込めて糾弾。迫力に与党席も静まり返りました。(9月18日、本会議)

近畿で

「希望の提案」語り続け

法案ストップへ全力をあげてきた大門さん(写真はJR奈良駅前＝8月30日)。その訴えには「とても分かりやすく、お聞きしたかったことが聞けてよかった。友人、知人に大門さんの話をしたい」(滋賀の青年)などの感想が出されました。



戦争法強行の翌日には、深夜に及ぶ国会審議の疲れを押して近畿入りして抗議宣伝。「国民連合政府」の提案が出されると、大門さんは「希望の提案」と呼び、『国民連合政府』の実現は、戦争法廃止にとどまらず、その後の日本の進路に新しい地平を開くことになるでしょう。今日もこの『希望の提案』を大いに語っていきたいと思います」と訴え続けています。

参院選勝利近畿ブロックニュース

TEL06(6975)9111 FAX06(6975)9115

比例予定候補・大門さん特集③ 2016. 1. 12